別紙様式

令和5年度　学校評価報告書

小樽市立朝里中学校
校長　大　山　倫　生

1　本年度の重点目標

「生徒が創る学び」の実現　～ 幸せに生きるために ～
＜ウェルビーイングの深化を目指して＞

2　自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価 評価	自己評価 取組状況・達成状況	学校関係者評価
1	未来を創る力の育成	確かな学力の育成	生徒アンケートにおいて「国語・数学が好きですか」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上とする。	A	心理的安全性が担保された教科経営を心がけるとともに、生徒に先を見通した単元計画の提示、授業後の振り返りの徹底を図った結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、75.8%であった。	◎
		特別支援教育の充実	特別支援学級の保護者のアンケートにおいて、「お子さんは楽しく学校に登校していますか」という問いに対して、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上とする。	B	心理的安全性が担保された学級経営を心がけるとともに、機会を見つけ、保護者と生徒の実態を共有し、個別の指導計画等を作成した結果、肯定的な回答をした保護者の割合は75%であった。	○
		国際理解教育の充実	生徒アンケートにおいて「英語の授業ではALTとの授業を通して、学びが深まっていると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上とする。	A	心理的安全性が担保された教科経営を心がけるとともに、ALT来校時には、オールイングリッシュの授業を行い、発言を間違っても価値付けるなどの取組を進めた結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、90.6%であった。	◎
		理数教育の充実	生徒アンケートにおいて「理科の授業では観察や実験などを通して、学びが深まっていると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上とする。	A	実験を通して、個人で仮説を考えたり、グループで協議したり、仮説を検証したりする過程を充実させた結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、95.3%であった。	◎
		情報教育の充実	生徒アンケートにおいて「名前や顔写真などの個人情報は公開しない」と回答する生徒の割合を90%以上とする。	A	GIGAスクールサポーターを活用した情報モラル教室や警察署署員を講師にした非行防止教室、学級での指導を行った結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、91%であった。	◎
		キャリア教育の充実	「未来をつくる力　キャリアパスポート」を活用し、生徒アンケートにおいて「以前よりもなりたい大人のイメージがもてた」という問いに対して、肯定的な回答する生徒の割合を70%以上とする。	B	キャリア教育について、学期始めや終了時等にキャリアパスポートを活用して短期・中長期的な意識付けを行った結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、69.9%であった。	○
改善方策		確かな学力の育成については、学年・教科担任ごとに偏りがあることから、より一層の授業改善に引き続き取り組む。特別支援教育の充実については、年度末に保護者との面談をしてコンエンドを振り返る際に保護者と十分に協議し、その内容を反映させる計画を立案し、実行する。情報教育及びキャリア教育の充実については、学級等で取り上げる機会を増やすなどの措置を講じて生徒に引き続き啓発していく。				
学校関係者評価委員による意見		「B」評価が2項目あるが、それぞれほぼ目標値を達成しており、成果が上がっていると思われる。 CS委員として、12月の木村教諭の研究授業を見学に行ったが、生徒に対する気配りや生徒が自分自身で学び方を選択し、学習に取り組む素晴らしい姿を見させていただいたので「理数教育の充実」の評価の高さは納得のいくものである。				
2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	生徒アンケートにおいて「自分にはよいところがある」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上とする。	B	道徳の時間だけでなく、学校の教育活動全体を通して、心理的安全性の担保や、違い、多様性を認め合える学級・教科経営に取り組んだ結果、生徒の肯定的な回答をした生徒の割合は、79.8%であった。	○
		ふるさと教育の充実	SDGsを切り口に各教科等と横断的な教育課程を計画し、CSの機能を生かし、地域人材を活用した取組を年間5単位時間以上実施する。	A	朝里地区の地域研修や小樽市内の研修などで、CS委員や保護者の人脈を有効に活用した結果、地域人材を活用した取組を10時間程度実施することができた。	◎
		読書活動の推進	学校図書館の充実を図るため、学校司書と司書教諭が連携し、配当予算に応じた蔵書数を拡充することで、蔵書の貸し出し数を前年比10%増にする。	A	学校司書と連携し、生徒の実態を把握したり、教科担任と連携し、教科指導に活かせる蔵書の購入を図った結果、蔵書数が782冊増加し、貸し出し数が前年の159冊から410冊と前年比157.8%増加した。	◎
		体験活動の推進	北海道社会福祉協議会のボランティア協力校としての活動、旅行的研修での体験学習、CSと連携した防災学習、朝里地区まちづくりの会の行事への参加等の体験活動を年間5回以上実施する。	A	校区の清掃活動や旅行型研修の際の体験活動、CSの防災訓練、パラスポーツイベント、朝里地区まちづくりの会の雪まつりなど計5回、体験活動に参加することができた。	◎
		コミュニケーション能力の育成	生徒アンケートにおいて「友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしている」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上とする。	A	全国学力・学習状況調査で課題となった「表現力」の向上のため、「教えすぎない授業」をテーマに授業改善に取り組んだ結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、91.5%であった。	◎
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	いじめアンケートを毎月実施し、積極的ないじめの認知に努め、いじめの解消率を100%とする。	A	いじめアンケートを毎月実施し、積極的ないじめの認知に努めた結果、認知件数が16件、いじめの解消率が100%となっている。（令和6年3月15 日現在）	◎
改善方策		道徳教育の充実については、学校教育教育全体を通して引き続き行うとともに、生徒の自己肯定感を高める方策として、一人ひとりの違いや多様性を認め合うことのできる心理的安全性が担保された学級・教科経営の改善・充実に引き続き組織的に取り組む。				
学校関係者評価委員による意見		それぞれの評価が高く、成果が上がっていると見られる。 「ふるさと教育の充実」「体験活動の推進」の数値目標が他の項目と視点が違うことから、来年度に向けて検討してはどうか。 「体験活動の推進」に係り、毎年10月に行われているCSと連携した防災学習は、地域をまとめ上げた素晴らしい活動であり、年を追うごとにどんどん充実した内容になっている。是非、地域の行事として持続可能なものにしていってほしい。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	生徒アンケートにおいて「体力や運動について自分の課題を克服するために努力している」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上とする。	A	新体力テストの自己分析を反映したウォーミングアップを生徒自身がつくるとともに、定期的に運動能力を把握する機会を設けた結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、82.6%であった。	◎
		食育の推進	生徒アンケートにおいて「朝食を毎日食べていますか」の問いに対して肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上とする。	B	外部講師を招聘し、食育に係る授業を行い、食の重要性について学ぶ機会を設けた結果、肯定的な回答をした生徒の割合は、87.7%であった。	○
		健康教育の充実	外部講師を活用した薬物乱用防止教室を年1回以上実施する。	A	外部講師として小樽警察署職員を招聘し、非行防止教室を1回実施した。	◎
改善方策		食育の推進については、生徒の実態を保護者に伝えるとともに、食の重要性について学校便りや学級通信等を利用し、引き続き保護者に協力を求める。				
学校関係者評価委員による意見		この目標も概ね達成できている。 「食育の推進」については、学校の取組以外にも保護者がどのように意識しているのかを次年度のアンケートに盛り込んではどうか。保護者の協力がなければ、健やかな体の育成はできないと考える。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	生徒アンケートにおいて「毎日家庭学習を90分以上する」と回答する生徒の割合を75%以上とする。	C	MEXCBTの活用や放課後学習会、長期休業中の学習支援に取り組んでいる最中であるが、結果は肯定的な回答をした生徒の割合が、33.8 %であった。	○
		学校と地域の連携・協働の推進	保護者アンケートにおいて「学校は、保護者・地域と関わり、願いを生かした教育活動を行っている」という問いに対して、肯定的な回答をする保護者の割合を70%以上とする。	B	学校の教育活動やCSの活動内容を保護者や地域に発信するなどの取組をした結果、肯定的な回答をした保護者の割合は66.7%であった。	○
改善方策		家庭教育支援の充実については、全学年の共通の課題であることから、現在取り組んでいるMEXCBTの活用や放課後学習会、長期休業中の学習支援以外に、各質問紙調査の結果から、生徒の家庭学習習慣を分析し、定期テストに向けた計画表作成時やテスト終了後に放課後学習通信を発行するなど、生徒自身が自らの家庭学習習慣を見直す機会を意図的に設けることができるよう、引き続き学校全体として組織的に取り組む。				
学校関係者評価委員による意見		数値目標の設定内容については検討すべきである。 「家庭教育支援の充実」については、塾に通っている生徒もいることから、それを考慮した設問を次年度はつくっていただきたい。家庭教育については、学校教育ではなく社会教育からのアプローチが必要であるので、例えば「勉強をしなさい」と声をかけた保護者の割合を尋ねるなどの工夫をしてほしい。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	教員アンケートにおいて「小中一貫教育の必要性を感じる」という問いに対して、肯定的な回答をする教員の割合を90%以上とする。	C	小中一貫教育連絡協議会や小中合同研修会を開催し、全ての教員が部会に所属する取組を行った結果、肯定的な回答をした教員の割合は61%であった。	○
		教育環境の整備・充実	学校の老朽化が進んでいるため、PTAと協力し、校内外の環境整備を年2回実施する。	A	PTAと協力し、グラウンド整備やあじさいの植樹などの花壇整備等を2回実施した。	◎
		教職員の資質・能力の向上	今年度から、必要な学びを主体的に行うため研修履歴を記録することから、全ての教員が年1回以上校外で行われる研修に参加する。	A	今年度から始まった新たな研修制度の下、すべての教員が、市教委や道教委、後志教育研修センター等主催の校外で行われる研修に参加した。	◎
		学校運営の改善	No部活動Dayや定時退勤日を設けることで、在校等時間から条例で定める勤務時間等を減じた時間が1か月で45時間を超える教員の割合を10%以下とする。	C	部活動ガイドラインに則った指導や定時退勤日を月に複数回設ける取組、校務のDX化に取り組んだ結果、勤務時間45時間ラインを超えた教員が25名中8名、32%であった。	◎
		学校安全教育の充実	小学校及び地域と連携した避難所運営訓練を1回実施する。また、北海道地域防災マスターや防災士と連携し、防災教室を1回実施する。	A	CS主催「朝里中学校防災訓練」を実施し、地域住民175名（小中学生：65名、地域住民：95名、スタッフ：15名）が参加した。また、北海道地域防災マスター（兼防災士）と連携した防災教室を1回実施した。	◎
改善方策		学校段階間の連携・接続の推進については、今年度から全ての教員が小中合同研修会の部会に所属し、中学校区の課題の改善に向けて共通認識をもつ取組を行っていることから、引き続きこの取組の充実を図るように努める。 学校運営の改善については、月ごとに時間外勤務時間が変動するものの、総じて改善傾向にあることから、引き続き業務内容の精選・効率化について全教員に対して呼びかけを徹底し、時間外勤務の状況の見える化を図り意識付けに努める。				
学校関係者評価委員による意見		防災訓練など小中学校の連携が十分に図られていた。 「学校安全教育の充実」に係り、CS主催の防災訓練は地域の行事の一つとして成長している。昨年度は多くの小中学生が参加して盛大に行われたが、子育て世代の参加者があまりいなかったので、小中学校の各PTAで積極的に参加を呼びかけるなどして防災訓練への参加者を増やすなどの取組を行ってほしい。				
社会教育に関連する目標（目標6～8）			文化芸術に直接触れるため、美術館等の社会教育施設を年1回以上訪問し学習する。	A	旅行型研修のプログラムの一環として、全学年において、社会教育施設を1回訪問した。	◎
改善方策		旅行型研修以外にも、市総合博物館や美術館、文学館等の社会教育施設を、年間指導計画に位置付け、利用する機会を拡充するなど、各教科担任に働きかける。				
学校関係者評価委員による意見		大変重要な取組である。今年度は、美術科の福原教諭に依頼し、町内会施設に作品を借用させてもらうなど大変感謝している。朝里地区では春には「朝里川現代アート展」を開催し、来場者が年々増えていることから、地域としてもそのようなイベントを通して子どもたちに芸術作品に触れる機会を増やすよう引き続き努力していきたい。				